

19 異常を感じたら

- 万一次のような異常を感じたら処置、対策にならない確認してください。それでも改善されない時は、本体電源スイッチをOFFにして、ブレーカーを落とし、販売店、施工店、又は弊社窓口へご一報ください。分解は危険です。

こんなとき	原因	処置、対策
ファンが運転しない。	ブレーカーが落ちている。	ブレーカーを上げてください。
	結線が外れている。または間違っている。	正しく結線してください。
	単相200Vですか。	正しく結線してください。
	モーター・回路の異常。	電源を切り、お近くの弊社窓口へご相談ください。
切替スイッチのランプが点灯しない。	切替スイッチがONになっている。	ONの場合、切替スイッチのランプは消灯します。
	モーター、回路の異常。	電源を切り、お近くの弊社窓口へご相談ください。
運転中に異音や振動がする。	本体がしっかり設置されていない。	正しく本体を設置してください。
	ファンの内部に異物がある。	異物を取除き、清掃してください。
結露が起こる。	過剰加湿、室内の温度が不足している。	湿度を抑える、または室内の非暖房室をなくし、窓の表面温度を上げてください。
ブリーズ(排気口)の吸い込みがない。	換気ルートダクトの外れ、潰れ、破れ。	ダクト配管を確認し、正しく施工してください。
上記以外のトラブル		電源を切り、お近くの弊社窓口へご相談ください。

20 据付後の確認

チェック項目	不具合時の対策	チェック
本体及びダクト配管は断熱層・気密層の室内側ですか？	断熱層・気密層の室内側にする。	
点検口は指定の位置に設置しましたか？	指定の位置に設置する。	
給気口および屋外側ダクトは雨水の浸入を防ぐため、屋外に向かって1／50以上の傾斜をつけましたか？	傾斜をつけて設置する。	
製品本体およびダクト内に切り粉や異物(紙・断熱材の破片等)が入っていませんか？	異物などを取除く。	
本体にダクトが確実に接続されていますか？	ダクトを確実に接続する。	
同梱の運転位置シール添付。	同梱のシールを貼付ける。	
200Vを確認し正常に運転できていますか？	●電源電圧は交流200Vか？ ※直流・異電圧を印加すると製品が破損します。	
風量切替スイッチで「強」「中」「弱」の運転の切替ができますか？	●電気工事(結線)が結線図通りか？	
異常な振動や騒音がありませんか？	●天吊金具や分岐ボックスのゆがみがないか？ ●ダクトはずれがないか？ ●部品はずれ、破損はないか？	
各排気グリルから排気がされていますか？	●配管内に異物混入はないか？ ●ダクトはずれがないか？ ●風量低下や異常音の原因となるような配管をしていないか？	
給気口(パスカル)のシャッター開閉は正常に作動しますか？	●テレスコープパイプ、下地の歪みがないか？ ●パスカル羽の外れがないか？	
給気口内部(テレスコープパイプ)の清掃は行いましたか？	石膏ボード等の破片はないか？ 清掃は行ったか？	

お客様ご相談窓口一覧

修理サービスや製品についてのご相談は、機種名をご確認の上、お買い上げの販売店または下記のご相談窓口にご依頼ください。

なお、名称、所在地、電話番号は、変更される場合がありますので、ご了承ください。

Japan Building Envelope Conditioning Knowhow



穏やかな室温と100年の耐久性を求めて

<http://www.jbeck.co.jp>

- 補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後6年です。●予告無しに仕様を変更する場合がありますのでご了承ください。●当説明書の製品の色は印刷物ですので実際とは異なります。
- この説明書は2014年7月現在のものです。●純正パーツ以外の機種を使用した場合は風量等(故障)の保証対象となりません。●当説明書の製品、デザイン他は、改善等のため予告なく変更する場合があります。

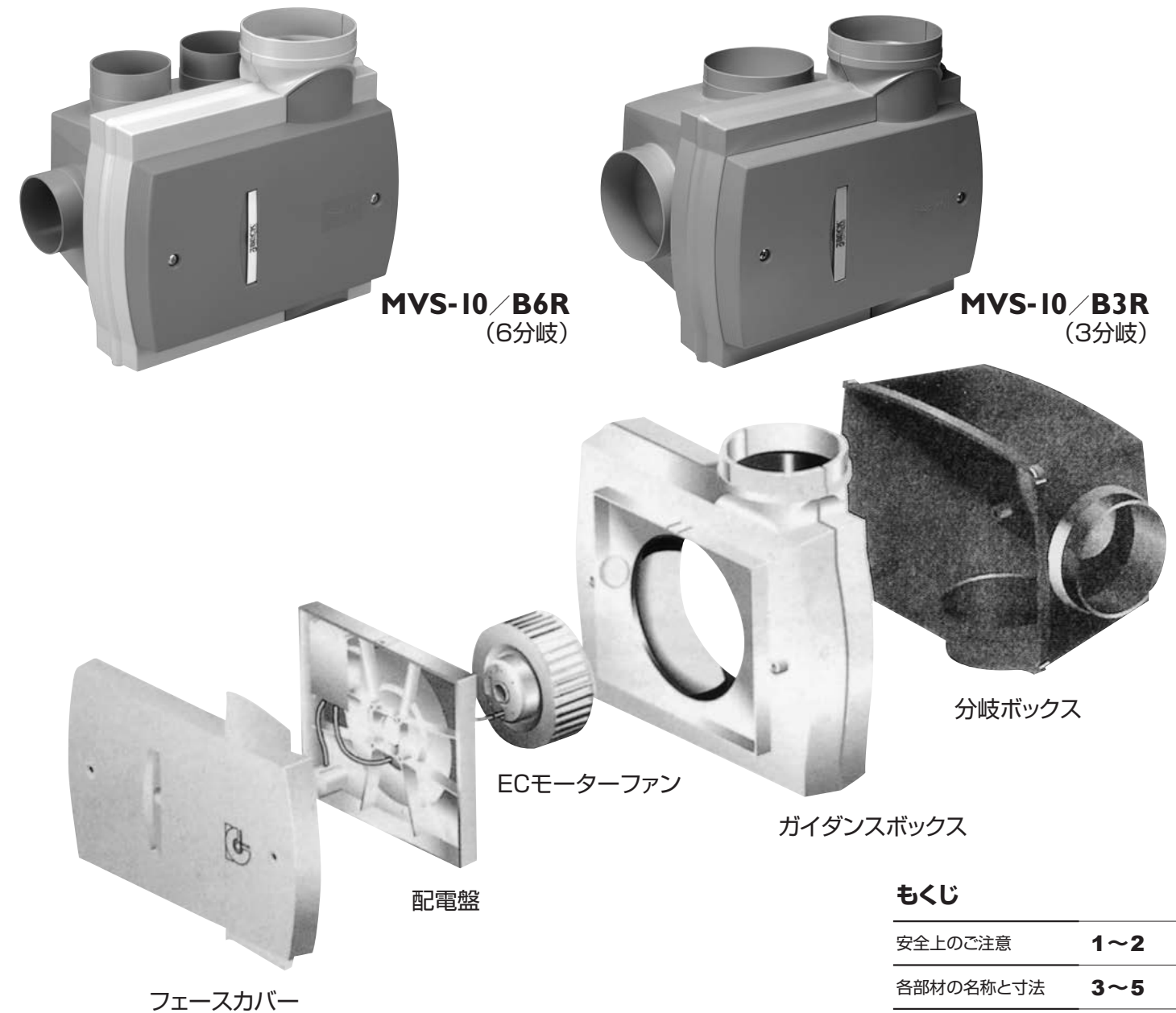
施工説明書

販売店・工事店さま用

排気型セントラル換気システム

グリーンファン GREEN FAN

- 据付け工事を行う前に、必ずこの施工説明書をお読みのうえ正しく据え付けてください。
- 工事完了後、この施工説明書は取扱説明書と共にお客様に渡し、大切に保管して頂いてください。



もくじ

安全上のご注意	1～2
各部材の名称と寸法	3～5
取り付け参考図	6
施工方法	6～14
試運転・据付後確認事項	14～15



穏やかな室温と100年の耐久性を求めて

<http://www.jbeck.co.jp>

1 安全のために必ずお守りください

この施工説明書には、安全に正しく据え付けていただくために、いろいろな絵表示が記載されています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みになり据付け工事を行ってください。


**警告**


作業を誤った場合に設置工事業者が、又は設置工事の不具合によって使用者が、死亡又は重傷を負う可能性が想定される場合


**注意**

作業を誤った場合に設置工事業者が、又は設置工事の不具合によって使用者が、傷害を負う危険が想定される場合及び物的損害のみの発生が想定される場合

表示の例

 この記号は注意を促す内容があることを告げるものです。









 この記号は禁止の行為であることを告げるものです。

 この記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

警告

- | | | | |
|---|---|--|---|
| ●仕様変更・改造は絶対にしない
火災・感電・けがの原因となります。 |  | ●メタルラス、ワイヤラス、または金属板張りの木造営物に金属製ダクトを貫通する場合、メタルラス、ワイヤラス、金属板と接触しないように取り付ける
漏電した場合、火災の原因となります。 |  |
| ●アースを確実に取付ける
故障や漏電のときに感電する恐れがあります。 |  | ●本体各部に直接水をかけない
ショートや感電の恐れがあります。 |  |
| ●交流200ボルト(単相)以外で使用しない
火災・感電の原因となります。 |  | ●内釜式風呂を設置した浴室に取り付けない
排気ガスが浴室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすことがあります。 |  |

注意

- | | | | |
|--|---|--|---|
| ●本体は、十分強度のあるところにしっかり取り付ける
落下により、けがをする恐れがあります。 |  | ●浴室内に切替スイッチを設けない
湿気により、感電することがあります。 |  |
| ●部品は確実に取り付ける
落下により、けがをする恐れがあります。 |  | ●炎があたりおそれのある場所には取り付けない
プラスチック部品が変形したり、着火して火災となる恐れがあります。 |  |
| ●配線工事は、電気設備技術基準や内線規程に従って、確実に行う
誤った配線工事は、漏電、感電や火災の恐れがあります。 |  | ●異常時の場合、モーターが停止する場合があります
モーター回転障害、異常発熱、電気ノイズ等により、自動的にモーターが停止します。電源プレーカーの入・切で再復帰します。 |  |
| | | ●ファン本体位置、配管経路、給排気口の位置等
設計者と事前確認を行ってから施工に取り組んでください。 |  |
- 

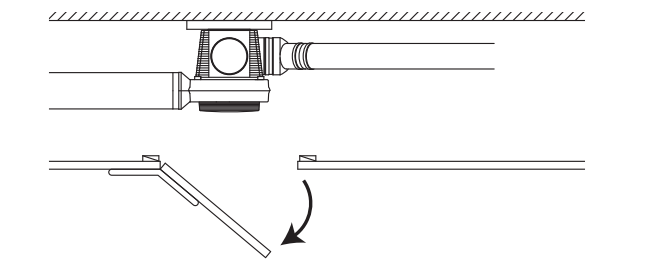
電気設備技術基準
内線規程

2 お願い

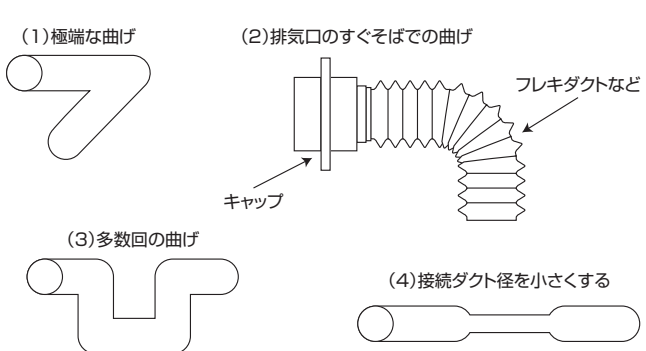
本体はダクトも含めて、必ず断熱空間内に設置してください。
断熱空間外に設置した場合、結露する恐れがあります。断熱空間外に設置する場合は断熱材料でおおってください。



点検口を設けてください。
保守点検のため。



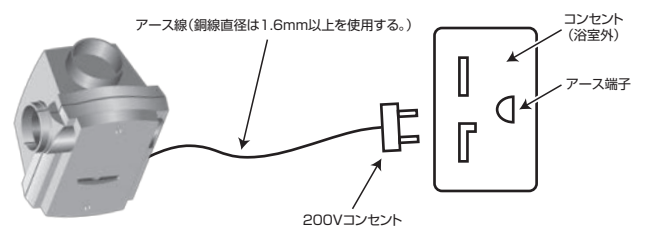
次のような配管工事はしないでください。
風量低下の原因となります。



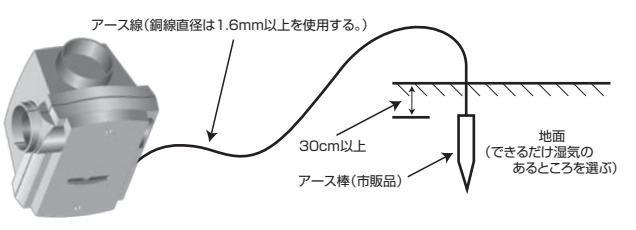
スリーブ管取り付けを行う際、必ず屋外側に勾配をとってください。(1/50～1/100)
勾配をとらないと、雨水が室内側に流れます。

アース工事をする場合は次のいずれかの方法で行ってください。(アース線は付属しませんので市販品をご利用ください)

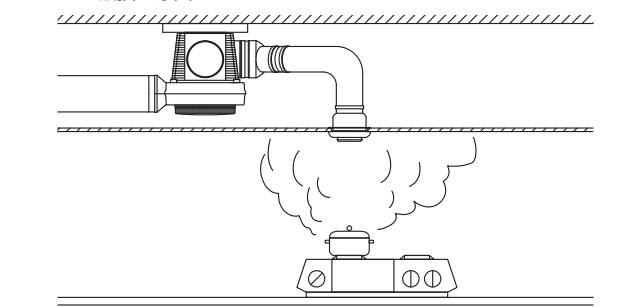
コンセントのアース端子にアース線を接続する場合



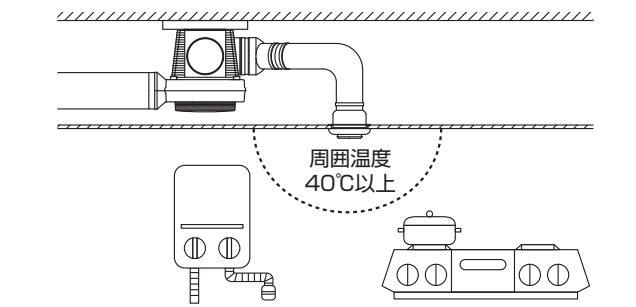
アース棒を使用される場合



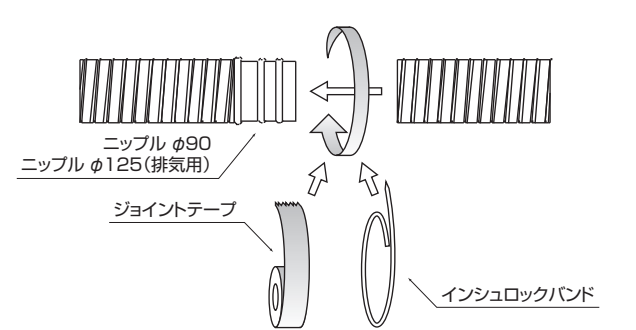
台所など油煙の発生する場所には取り付けないでください。
グリルなどの破損の原因となります。



高温(40℃以上)になる場所では使わないでください。
製品の変形やモーターの寿命を縮める原因となります。



ダクト接続の基本は、ジョイントテープ(標準品)で止めたあと、インシュロックバンド(標準品)で固定してください。
接続したダクトが引つ張られ外れることがありますので、しっかりと固定してください。



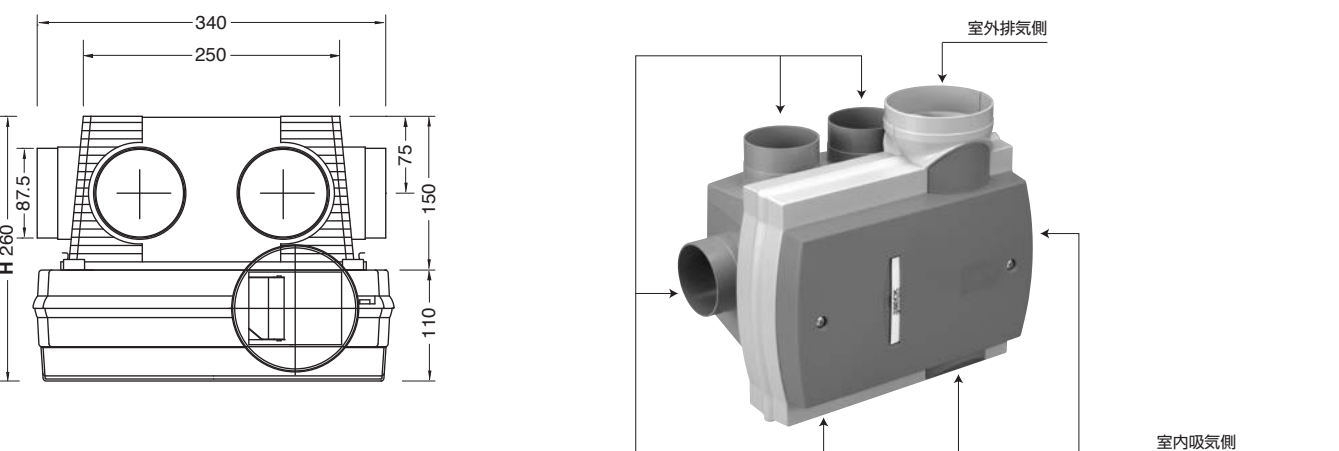
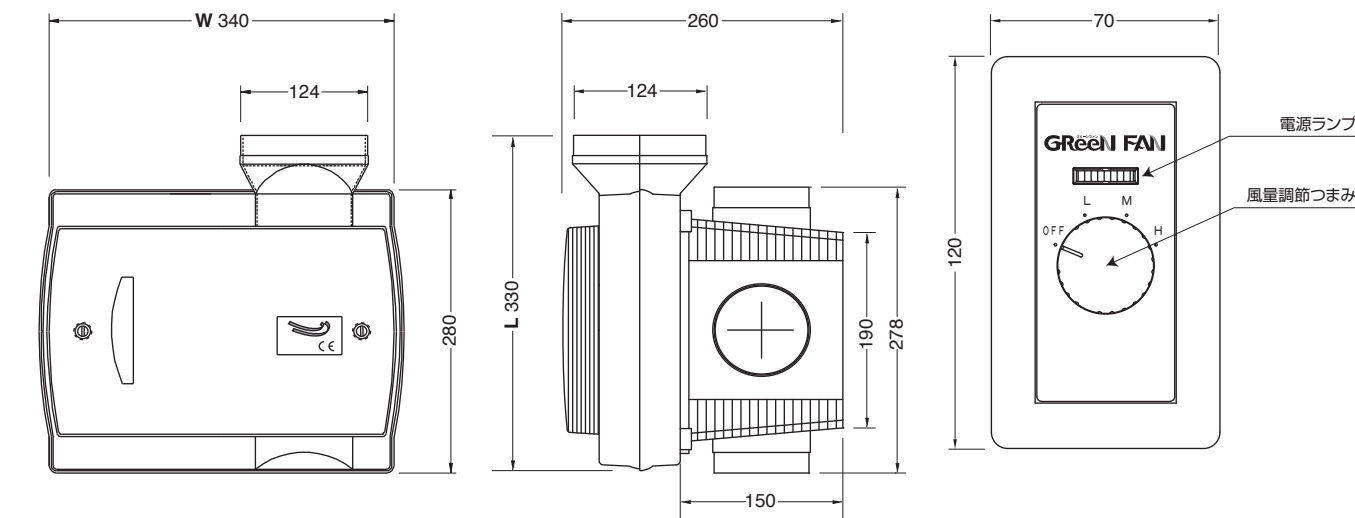
温泉や殺菌用塩素を使用する公衆浴場などには取り付けないでください。
故障の原因となります。

3 各部の名称と寸法

6分岐ボックス

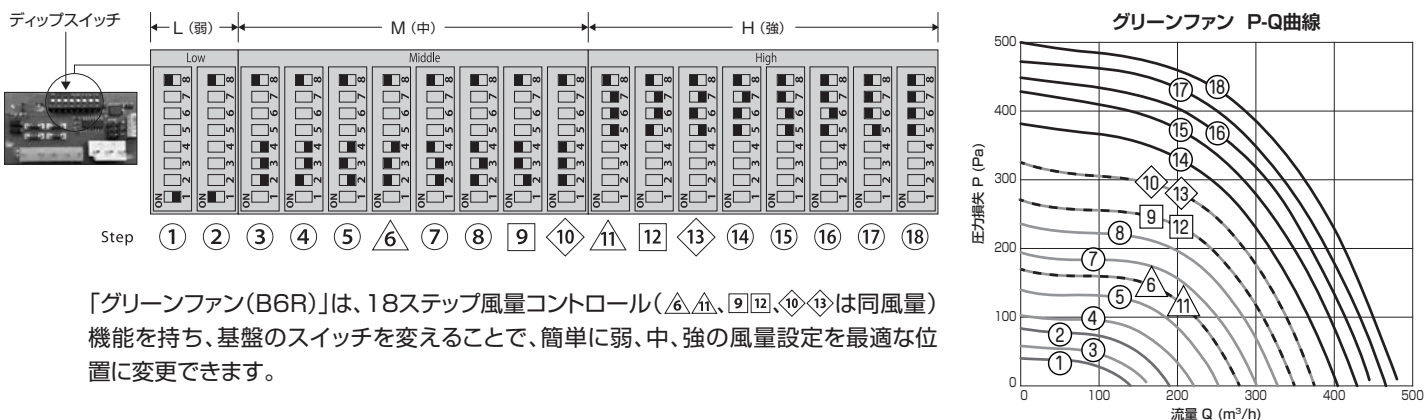
単位：mm

本体



仕様

名称	グリーンファン B6R	寸法	W340×H260×L330mm
形式	MVS-10/B6R	重量	3.5kg
種類	排気型セントラル換気システム	使用ダクト径	排気 φ125 吸気 φ90×6
電源	単相200V 50Hz/60Hz	騒音	21～58dB
風量	Free//480m³/h 200Pa//410m³/h	付属品	ビス×4本・フィッシャープラグ×4個 取扱説明書・保証書・開度ゲージ
消費電力	3～115W		

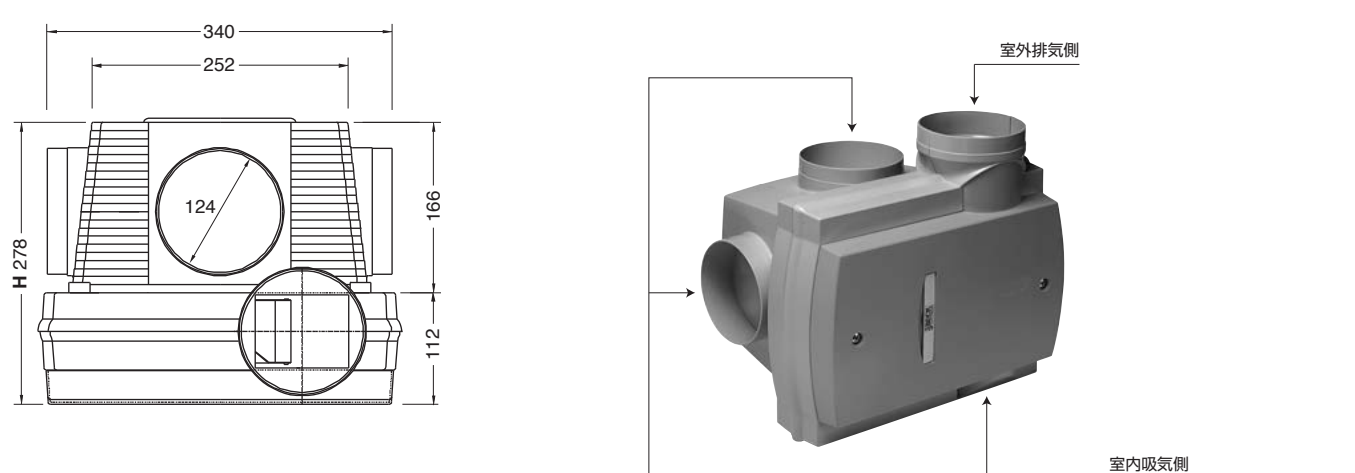
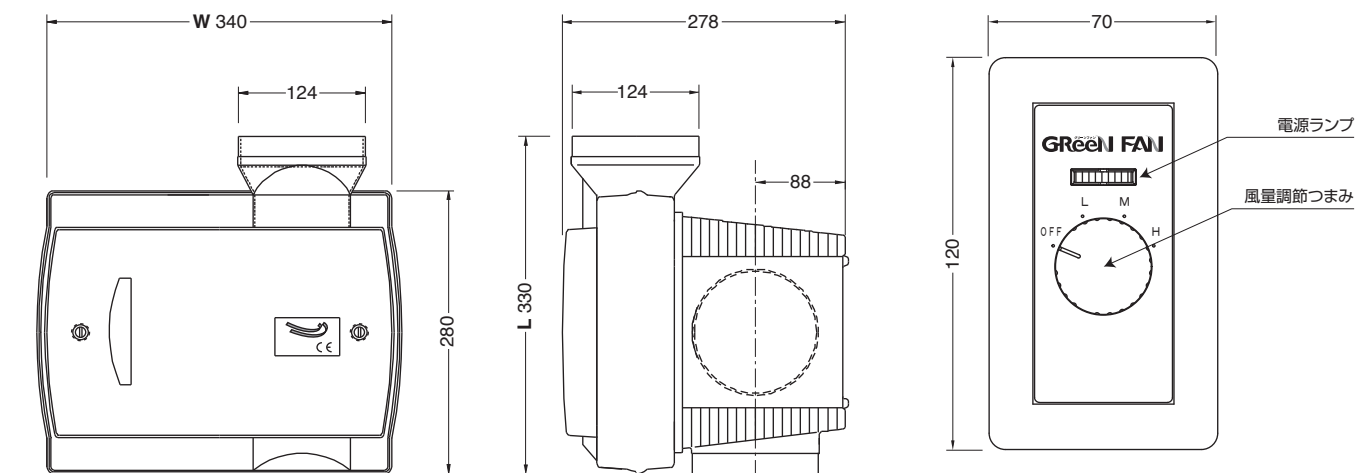


3 各部の名称と寸法

3分岐ボックス

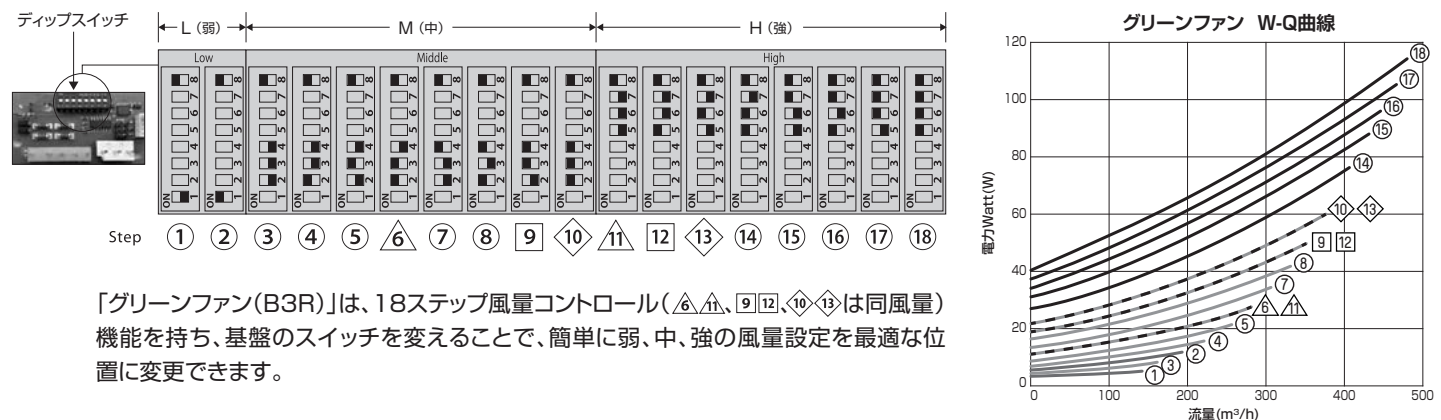
単位：mm

本体



仕様

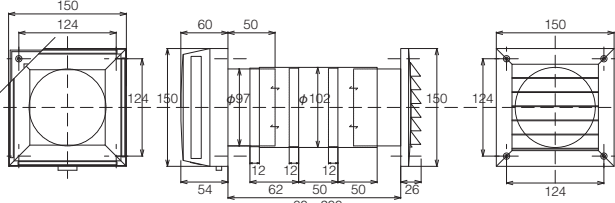
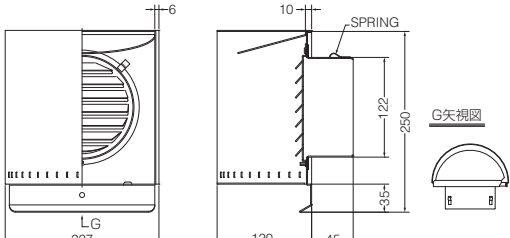
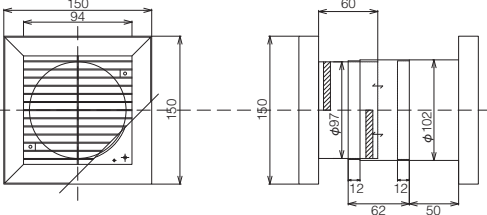
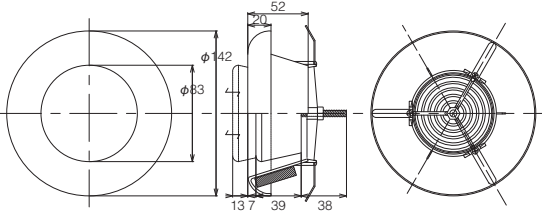
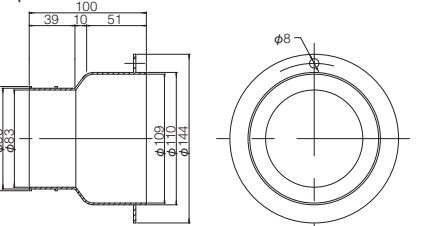
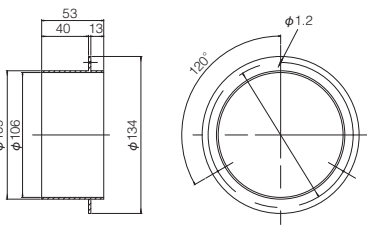
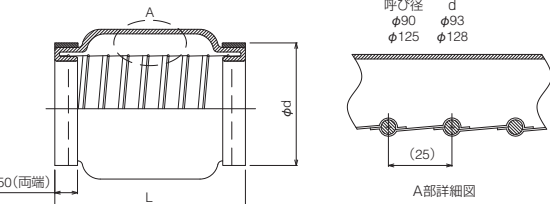
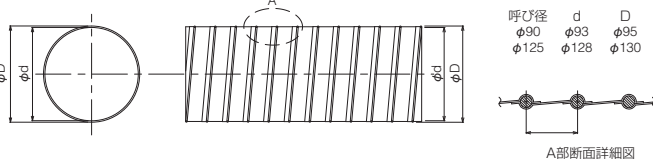
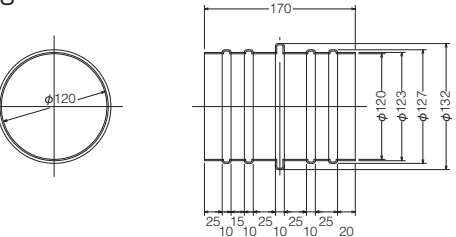
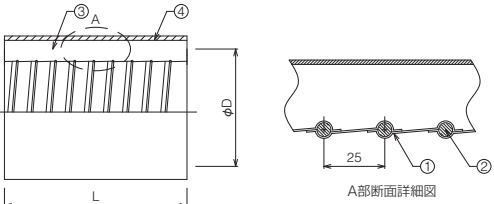
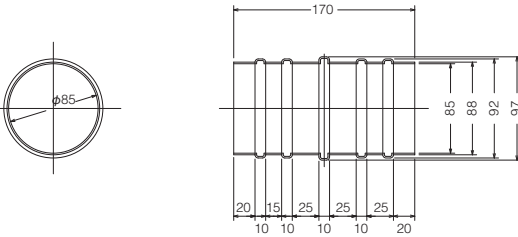
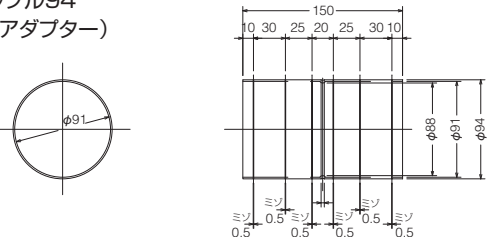
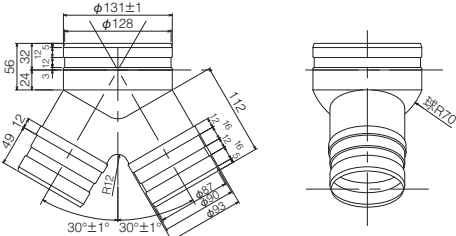
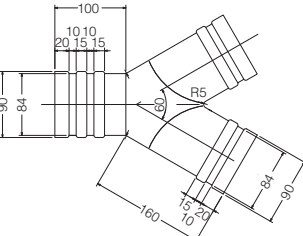
名称	グリーンファン B3R	寸法	W340×H278×L330mm
形式	MVS-10/B3R	重量	3.5kg
種類	排気型セントラル換気システム	使用ダクト径	排気 φ125 吸気 φ125×3
電源	単相200V 50Hz/60Hz	騒音	21～58dB
風量	Free//480m³/h 200Pa//410m³/h	付属品	ビス×4本・フィッシャープラグ×4個 取扱説明書・保証書・開度ゲージ・登録ハガキ
消費電力	4～115W		



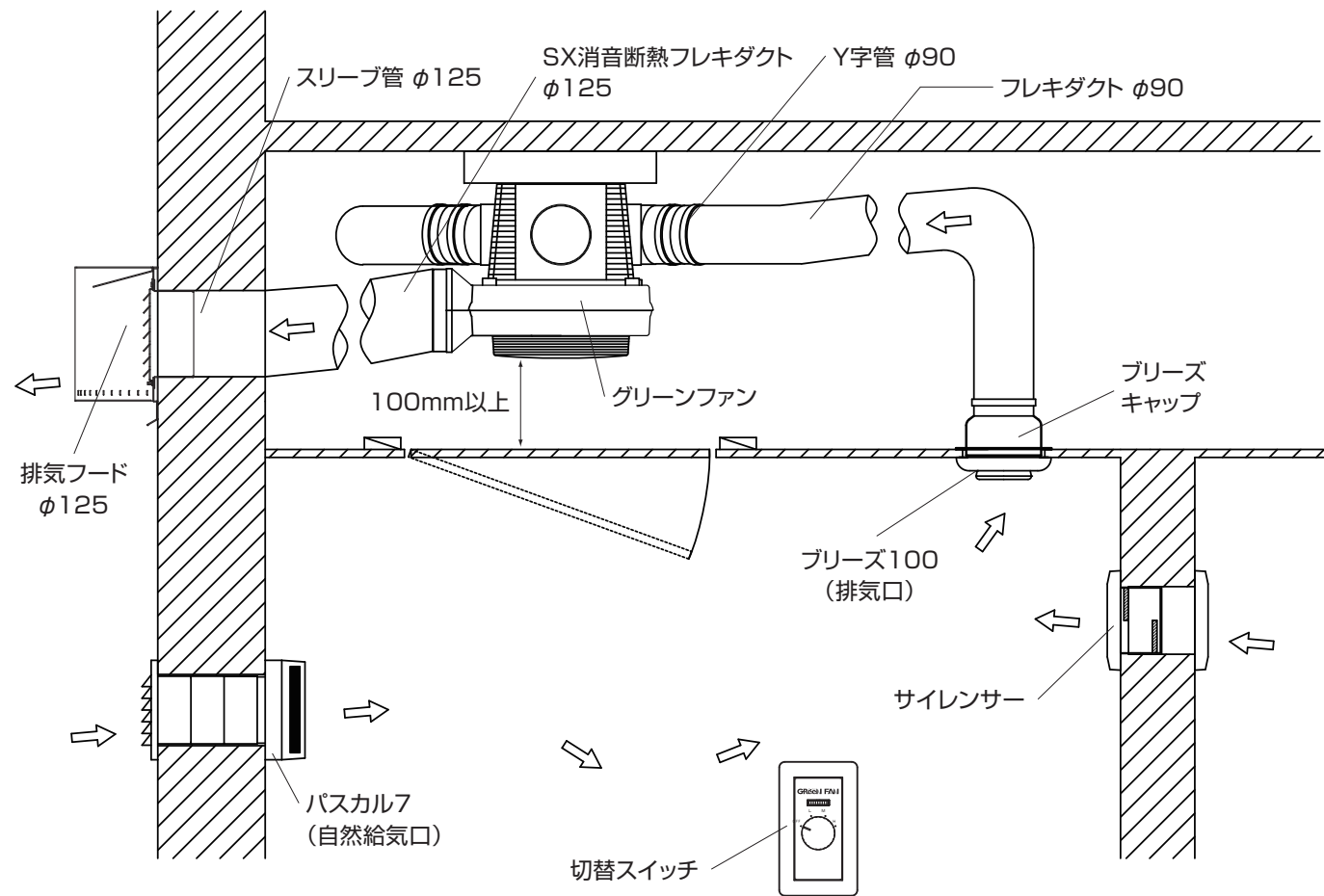
3 各部の名称と寸法 つづき

単位:mm

主要部材寸法

■パスカル7 	■SPフード 
■サイレンサー 	■ブリーズ100 
■ブリーズキャップ♀ 	■ブリーズキャップ♂ 
■SX消音断熱フレキダクト 	■WTフレキダクト ■ALBフレキダクト 
■ニップル125 	■SR断熱フレキダクト 
■ニップル90 	■Y字ニップル94 (Y字管アダプター) 
■Y字管125 	■Y字管90 

4 取り付け参考図



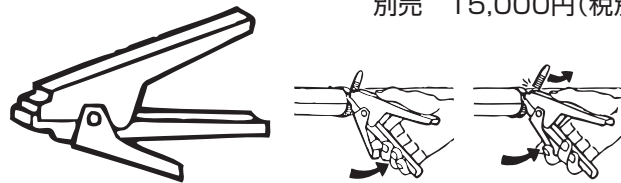
5 施工前の準備

施工に必要な工具類の例



インシュロックバンド専用締め具

別売 15,000円(税別)



お願い

●万一の怪我を避けるため必ず軍手等を着用してください。

6 換気ファン取り付け場所の確認

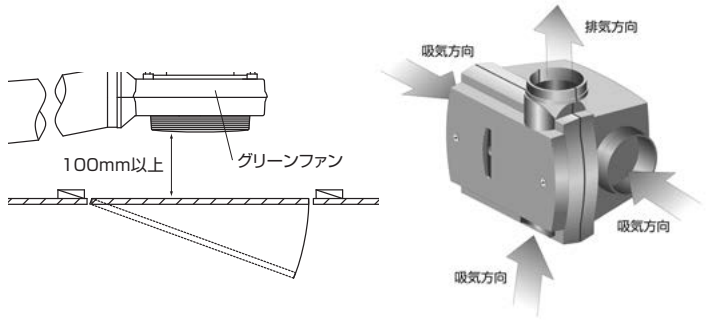
排気方向(φ125)を確認し、掃除やダクトの接続及び、メンテナンスができる最適な場所を選んでください。

⚠ 注意

●点検スペースとして、100mm以上の空間を換気ファンと点検口の間に設けてください。

お願い

●必ず断熱空間内に設置してください。
●天井ふところに納める場合は、必ず600mm角以上の点検口を設けてください。



7 ～ 10 の項目について

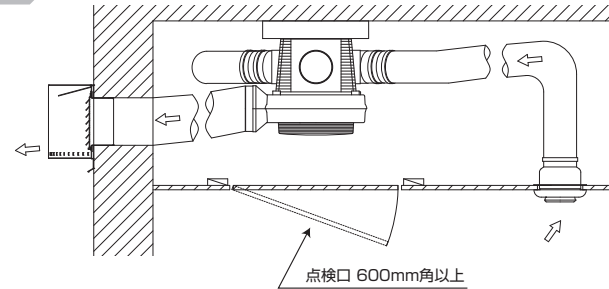
6分岐ボックスは「7～8ページ」、3分岐ボックスは「9～10ページ」をご覧ください。

7 点検口の配置 6分岐ボックス

天井板をはり、ファン本体の真下に点検口を設けてください。
(600mm角以上：市販品)
点検口からファンのフェースカバーを外せる位置に本体を設置する必要があります。

⚠ 注意

- 点検口の中心をファン本体の中央部に合わせて設置してください。
- 点検口のズレなどによりメンテナンスが出来ず、やむをえず点検口を広げるなどの追加工事が発生する場合があります。追加工事にかかる費用は工事店さまのご負担となりますので、あらかじめご了承ください。



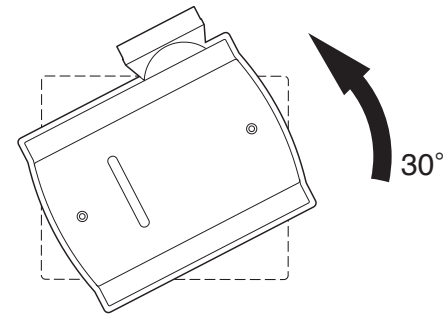
8 各部の外し方 6分岐ボックス

グリーンファン本体の外し方

ガイダンスボックスを左回しに30°回転するとボックスチャンパーと分かります。

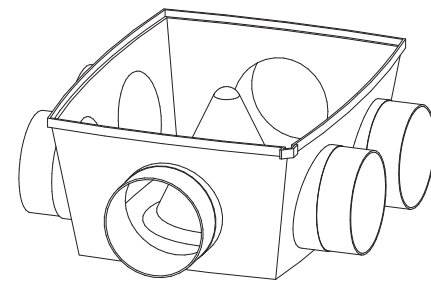
お願い

- 逆に回すと外れませんのでよく確認してください。



排気ルートの確認

設計に従って6分岐ボックスチャンパーのダクト接続口を確認します。
3分岐ボックスとは違い、既に穴が開いていますので、このまま施工できます。
使用しないルートは、エンドキャップ(別売)を使用して、穴をふさいでください。

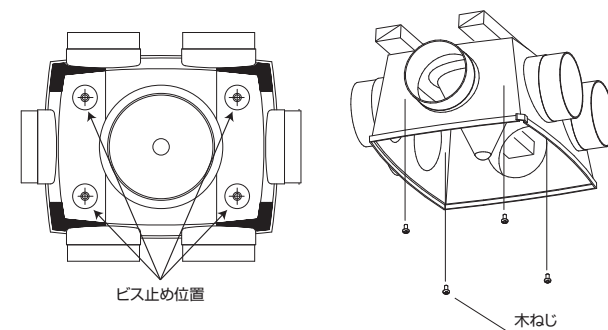


9 換気ファン取り付け方法 6分岐ボックス

本体取り付け上部に、450(L)×40(W)×20(H)mm以上の大きさの木板を取り付けます。
付属の木ねじを、右図の通り取り付けます。

お願い

- 本体は十分強度があり、振動の伝わりにくいところにしっかりと取り付けてください。
- グリーンファンの運転音は極めて静かですが、音を気にされる方は市販の防振ゴムでビス止めし、本体の表と裏(底)側にグラスウール等、吸音性の高い材料をつめてください。



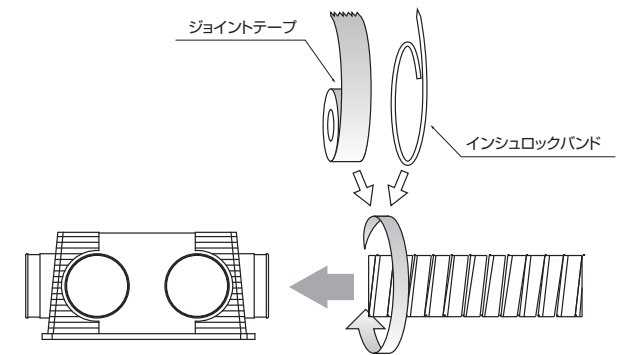
10 分岐部材の施工・フレキダクト取り付け 6分岐ボックス

吸気側

フレキダクトは6分岐ボックス吸気側接続部(φ90)の奥まで差し込み、ジョイントテープ(標準品)で止めたあと、インシュロックバンド(標準品)で固定してください。

お願い

- Y字管90φを直接接続する場合は、90φダクトを短くカットして使用するか、Y字ニップル94φをボックスにビスとテープで固定したあと差し込みます。



Y字管90を取り付ける場合

6分岐ボックスの分岐としてY字管90を使用できます。

お願い

- 設計計画以上の分岐は、風量が極端に落ちる恐れがありますので、変更の際は設計者と十分打合せを行ってください。

⚠ 注意

- ダクト接続の基本は、ジョイントテープ(標準品)で止めたあと、インシュロックバンド(標準品)で固定してください。
※02ページ参照



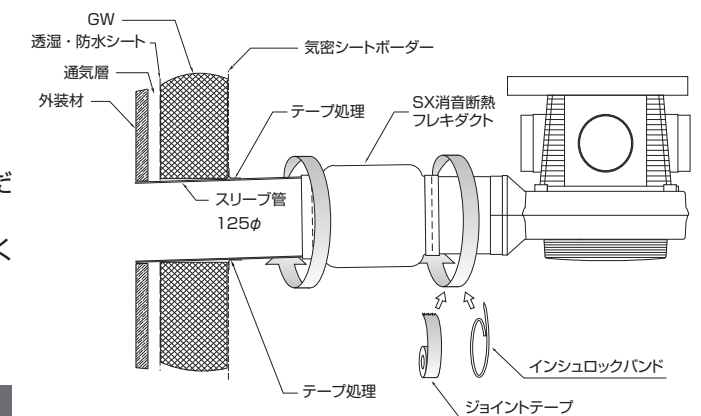
排気側

専用排気ダクト(φ125)を必ず使用し、本体の排気側接続部に奥まで差し込み、ジョイントテープ(標準品)で止めたあとインシュロックバンド(標準品)で固定してください。

お願い

- 必ず断熱空間内に設置してください。
- スリーブ管は屋外に向けて水勾配をとるように施工してください。
- 排気側は風量が集中しますので、可能な限り曲がりなく短く施工してください。
- 壁貫通廻りは接続根元まで断熱処理してください。

壁スリーブ管の開口はφ130～φ135mmです



7～10の項目について

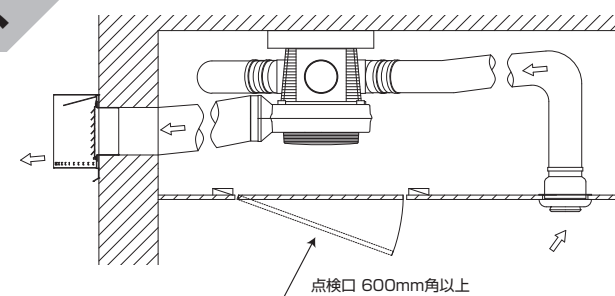
6分岐ボックスは「7～8ページ」、
3分岐ボックスは「9～10ページ」をご覧ください。

7 点検口の配置 3分岐ボックス

天井板をはり、ファン本体の真下に点検口を設けてください。
(600mm角以上：市販品)
点検口からファンのフェスカバーを外せる位置に本体を設置する必要があります。

⚠ 注意

- 点検口の中心をファン本体の中央部に合わせて設置してください。
- 点検口のズレなどによりメンテナンスが出来ず、やむをえず点検口を広げるなどの追加工事が発生する場合があります。追加工事にかかる費用は工事店さまのご負担となりますので、あらかじめご了承ください。



8 各部の外し方 3分岐ボックス

グリーンファン本体の外し方

ガイダンスボックスを左回しに30°回転するとボックスチャンバーと分かります。

お願い

- 逆に回すと外れませんのでよく確認してください。

排気ルートの穴あけ

設計に従ってボックスチャンバーに必要な排気ルートの穴を開けます。
カッター、ナイフ等で穴に沿って切り目を入れ、ハンマーで軽く叩くと穴があきます。

お願い

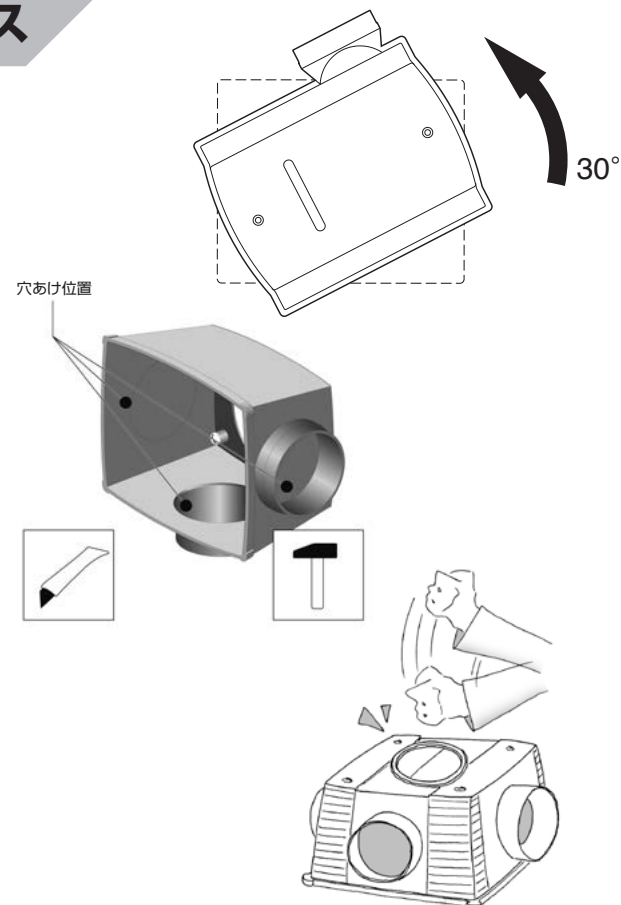
- 強く叩き過ぎるとボックスチャンバー破損の原因になります。

整流版の外し方

ビス止めの施工の際、整流版を外して取り付けることができます。軽く整流版を引っ張るか、裏面から叩いて外します。

お願い

- 整流版の取り付けは4点の爪をよく合わせて取り付けてください。うまく取り付けていないと整流版が落下し、モーター破損の原因になります。

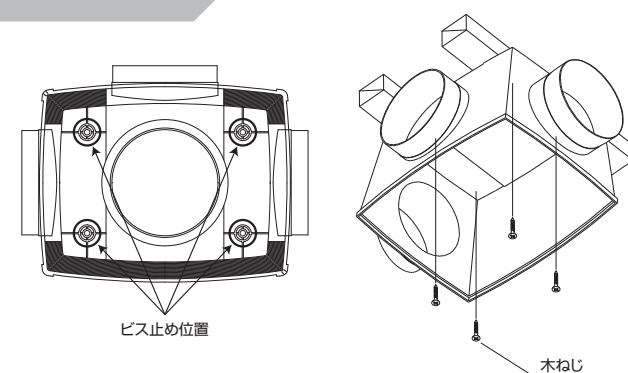


9 換気ファン取り付け方法 3分岐ボックス

本体取り付け上部に、450(L)×40(W)×20(H)mm以上の大きさの木板を取り付けます。
付属の木ねじを、右図の通り取り付けます。

お願い

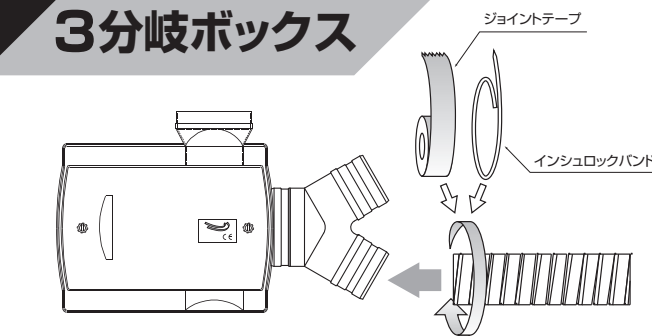
- 本体は十分強度があり、振動の伝わりにくいところにしっかりと取り付けてください。
- グリーンファンの運転音は極めて静かですが、音を気にされる方は市販の防振ゴムでビス止めし、本体の表と裏(底)側にグラスウール等、吸音性の高い材料をつめてください。



10 分岐部材の施工・フレキダクト取り付け 3分岐ボックス

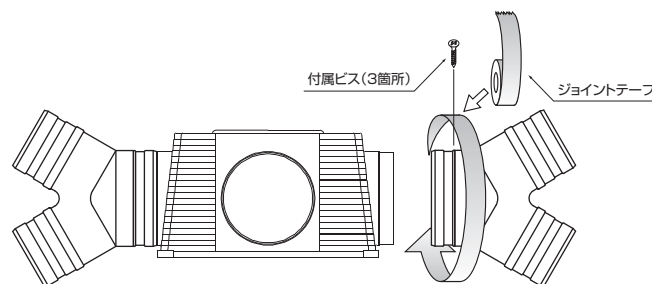
吸気側

フレキダクトは適切な長さに切断し、Y字管の吸気側接続部(φ90)に奥まで差し込み、ジョイントテープ(標準品)で止めたあと、インシュロックバンド(標準品)で固定してください。



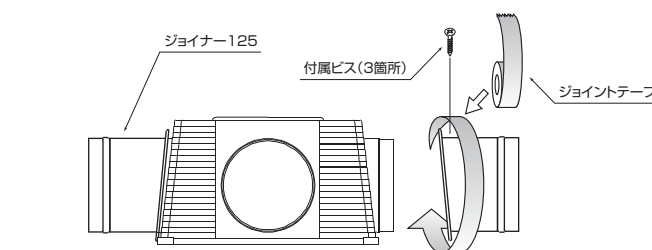
Y字管125を取り付ける場合

ボックスチャンバーとY字管125の固定は、付属ビス(3本)で固定し、ジョイントテープ(標準品)でしっかりと止めます。



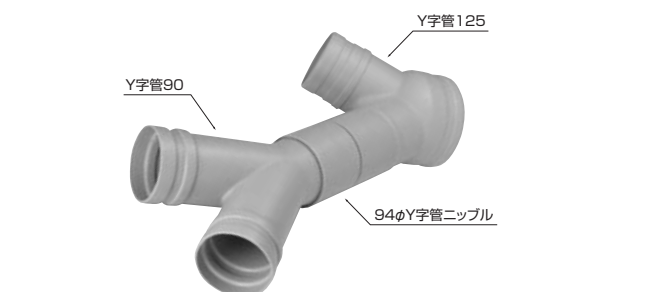
ジョイナー125を取り付ける場合

φ125mmダクトを接続する場合、ジョイナーを付属ビス(3本)で固定し、フレキダクトを接続します。
ダクトは、ジョイントテープ(標準品)でしっかりと止めます。



Y字管90を取り付ける場合

6分岐ボックスやY字管125の分岐としてY字管90を使用できます。
接続アダプターとして、94φY字ニップルを使用します。
接続は、ジョイントテープ(標準品)でしっかりと止めます。



⚠ 注意

- ダクト接続の基本は、ジョイントテープ(標準品)で止めたあと、インシュロックバンド(標準品)で固定してください。 ※02ページ参照

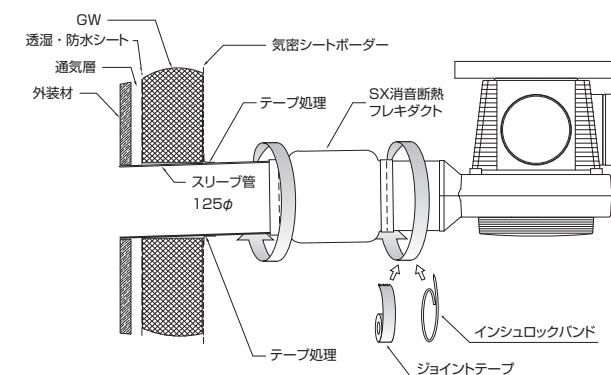
排気側

専用排気ダクト(φ125)を必ず使用し、本体の排気側接続部に奥まで差し込み、ジョイントテープ(標準品)で止めたあとインシュロックバンド(標準品)で固定してください。

お願い

- 必ず断熱空間内に設置してください。
- スリーブ管は屋外に向けて水勾配をとるように施工してください。
- 排気側は風量が集中しますので、可能な限り曲がりなく短く施工してください。
- 壁貫通廻りは接続根元まで断熱処理してください。

壁スリーブ管の開口はφ130～φ135mmです

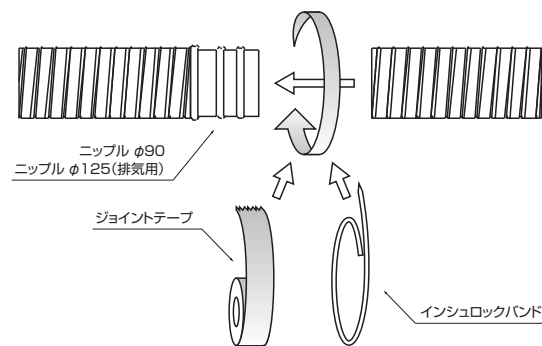


11 フレキダクトの延長

ニップルの両側からフレキダクトを差し込み、ジョイントテープ(標準品)で止めたあと、インシュロックバンド(標準品)で固定します。

⚠ 注意

- 接続したダクトが引っ張られ外れることがありますので、しっかりと固定してください。



12 排気グリルの取り付け

ブリーズキャップ♀型はあらかじめフレキダクトにジョイントテープ(標準品)とインシュロックバンド(標準品)でしっかり止めつけ、所定の位置に下げておきます。

お願い

ブリーズキャップ♂型は天井仕上げ後に取り外せませんので、外しておいてください。

ブリーズキャップの開口はφ120mmです

お願い

穴あけは野縁など木枠から50mm以上離して行ってください。ブリーズキャップ用の下地は不要です。

あけた穴からブリーズキャップ♀型を引き出し、ブリーズキャップ♂型と上下ではさみ合わせ、♀型♂型両方を緒握りながらボンドまたはビスで固定します。

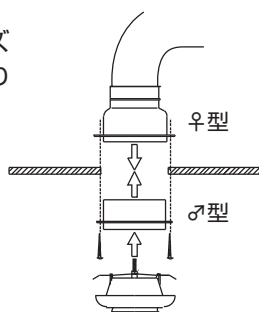
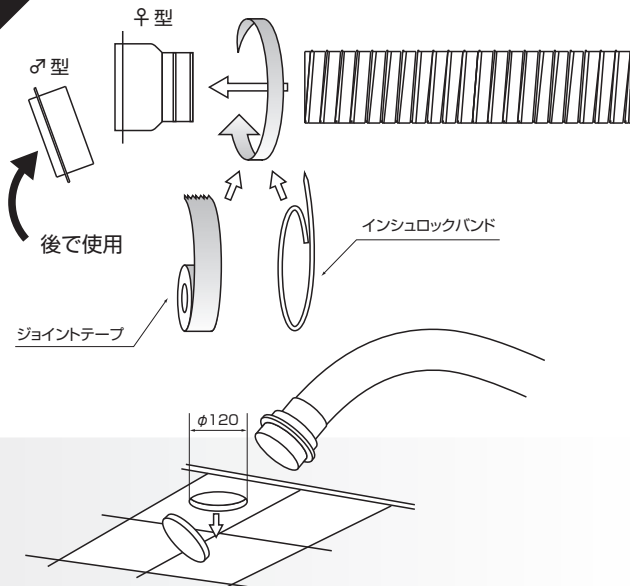
⚠ 注意

- 固定しない場合、メンテナンス時にグリルが落下する恐れがあります。

天井仕上げ後、ブリーズ100(排気グリル)を取り付けます。開度の調節は、右回りで小さく、左回りで大きく変化します。別紙計算書のブリーズ100の開度の値に合わせてください。(0~20)

⚠ 注意

- 裏面のパッキンは汚れ防止の目的のため捨てないでください。
- ブリーズ100の開度が開かない場合、裏のボルトを緩めてください。



135° 曲り管	分岐部の 合計圧力損失 Pa	1.5 分岐部 Pa/ヶ	2.0 分岐部 Pa/ヶ	2.5 分岐部 Pa/ヶ
ブリーズ100の 圧力損失	Pa	4.14	4.64	1.34
ブリーズ100の 開度	Pa	6.89	6.39	9.69
BOXチャンバーまでの 合計圧力損失	Pa	20.0	16.7	12.6
	Pa	11.03		11.03

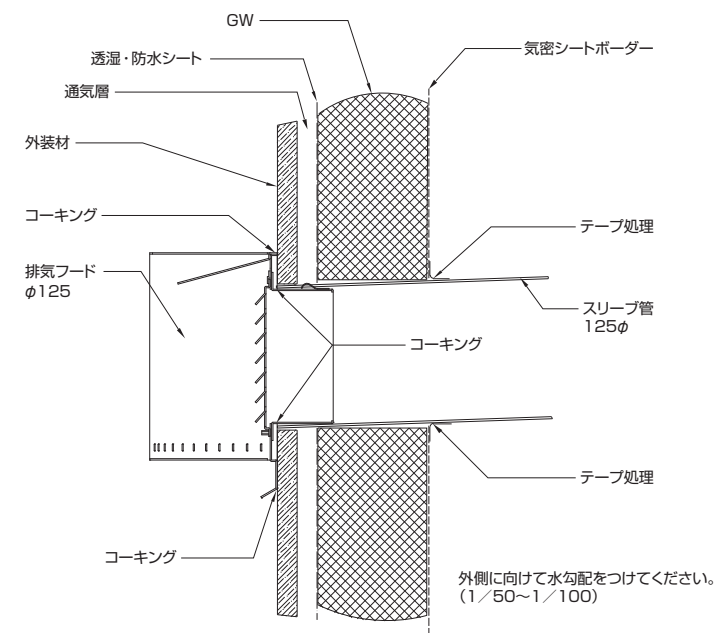
左へ回す	風量 大
右へ回す	風量 小

13 排気フードの取り付け

排気用スリーブ管が屋外先端まで配管されているか確認し、排気フード開口部が下になるようにスリーブ管に差し込みます。

排気フードと壁面のすき間および全周に雨水浸入防止のために、コーキング材(市販品)を施します。

外側に向けて水勾配をつけてください。(1/50~1/100)



15 切替スイッチの取り付けと電源ケーブルの接続

取り付け場所は日常生活のなかで、操作しやすく、じゃまにならない場所を選び、次のようなところは避けます。

- ・ガスレンジ、コンロなどの燃焼器具の近くで、温度が上がる場所
- ・水しぶきや水滴のかかる場所
- ・直射日光の当たる場所
- ・屋外

付属の切替スイッチは埋め込み専用です。市販の住宅用スイッチボックスを、切替スイッチ取り付け位置の壁面に固定し、電源ケーブルを予め埋設しておきます。(VVFφ1.6、φ2(銅)2芯線 2本使用)

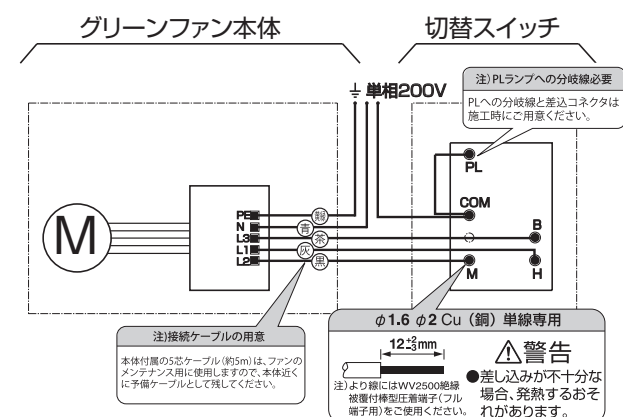
切替スイッチ用電源ケーブルを切替スイッチ本体の裏側のコネクタに奥まで確実に差し込んでください。

切替スイッチ本体を、壁に設置してあるスイッチボックスに取り付けます。

14 電源の接続

電源の配線工事および切替スイッチ用接続ケーブルの配線工事は、電気設備技術基準・内線規定に従って正しく行ってください。

電源は単相200V、50/60Hzです。この換気ファンは連続運転をしますので、必ず専用の電源回路を設けてください。本体からスイッチまでの配線はVVF1.6 2芯及び3芯を必ず使用してください。



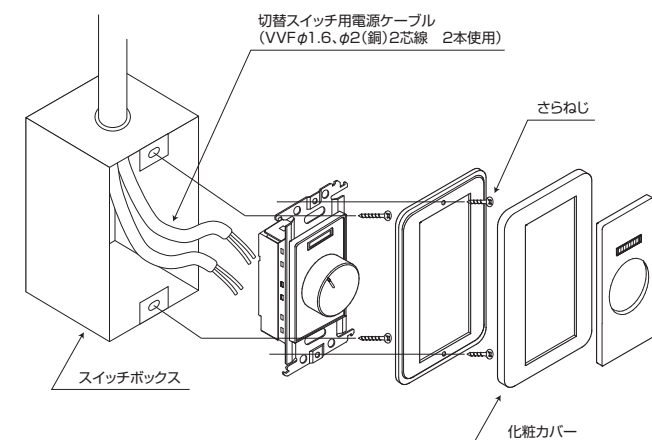
⚠ 注意

- 本体付属の5芯ケーブル(5m)は、ファンのお手入れ、メンテナンス用としてモーターファンを作業しやすい位置に移動させて使用しますので、本体近くに予備ケーブルとして残してください。切替スイッチ背面の配線は異なりますので、使用しないでください。

切替スイッチへの電源ケーブルについて

⚠ 注意

- 切替スイッチへの接続は、スイッチ本体裏面のコネクタに確実に差し込んでください。差し込みが不十分ですと、発熱、発火の原因になります。
- 接続した電線を過大な力で引っ張ったり、ねじったりしますと芯線に傷をつけますのでご注意ください。
- ノイズ 又は 電流の大きな機器の配線等が近くにある場合、モーターが異常停止する場合があります。

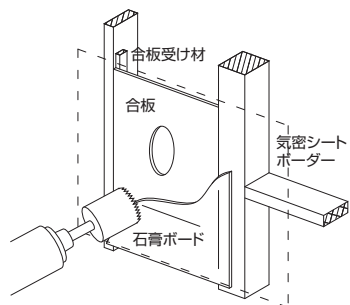


16 給気口の取り付け

I 下地施工

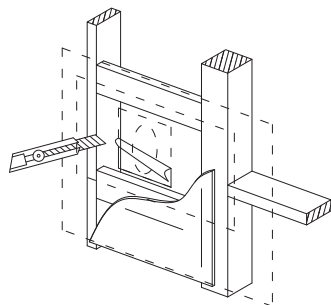
施工例1

石膏ボードを貼る前に合板で下地を確保します。石膏ボード及び外壁を両側からφ105～φ110ホルソーで穴をあけます。



施工例2

取り付け枠を施工後、下地の上から先張りボードを張り、パスカル7(給気口)の径φ102で切り取ります。次に気密シートを2重張りします。



施工例3

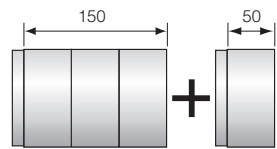
テレスコープパイプの押さえ枠としてフレームプレート(別売)があります。パスカル7(給気口)の場合は内側の枠をニッパー等で切り取ってください。



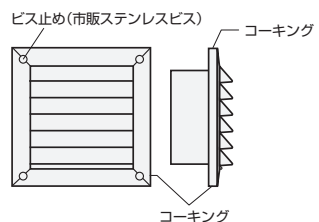
埋め込みに他のスリーブ管を使用する場合は塩ビSU管100(市販品)を壁の厚みに応じて埋め込みます。その際テレスコープパイプは使用しません。(水が流れ込まない様、外側に向けて勾配をつけてください。)

II テレスコープパイプ取り付け

壁厚が大きい場合は継ぎ足しできます。

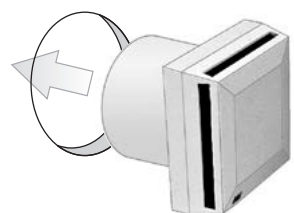


III 外部施工



内部施工終了後、パスカル7(給気口)の外ガラーをビス止めします。外側はステンレスビスを使用し、外周をコーキング処理します。

IV 室内施工



内装仕上終了後、パスカル7(給気口)の頭部をテレスコープパイプに差し込み、ビス止めします。施工後、正しくシャッターが開閉するか、下部のつまみを左右に移動し確認してください。

保護用の段ボールは完了後、外してください。

カバーを外し、4カ所をビス止めします。

※詳しくは、付属の取扱説明書をご覧ください。

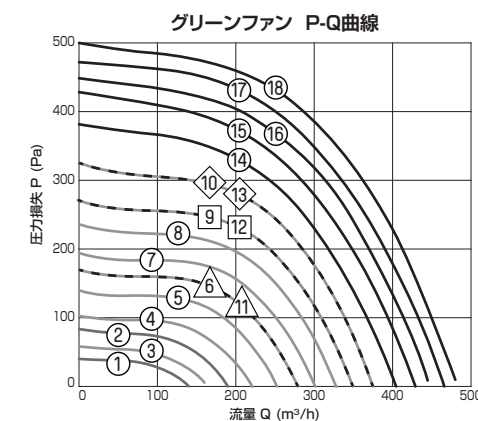
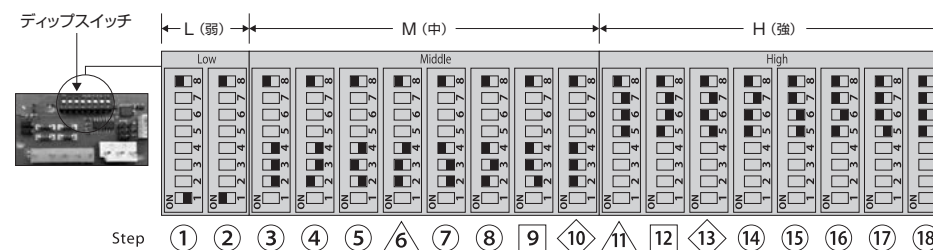
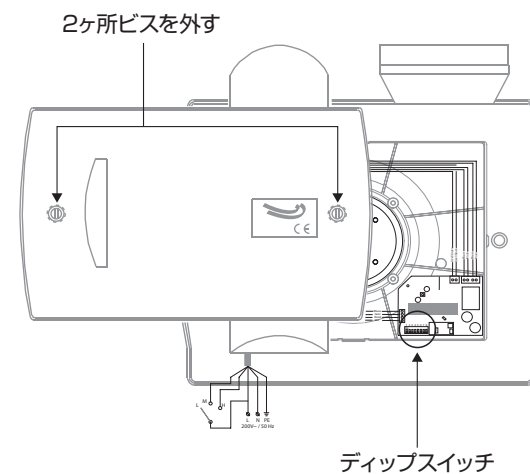
⚠ 注意

- テレスコープパイプの固定に、内部から直接ビスを打たないでください。
- テレスコープパイプの歪みは、開閉調節に影響がありますので、きれいに施工をお願いします。

17 ディップスイッチの設定

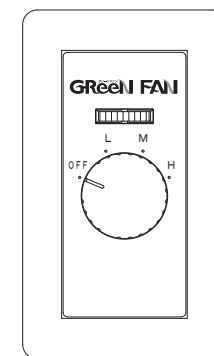
グリーンファンMVS-10/B6R・MVS-10/B3Rは18ステップの風量コントロール機能を持ち、基板のスイッチを変えることで、簡単に弱、中、強の風量設定を最適な位置に変更できます。初期設定は、弱-Step.2と中-Step.6と強-Step.14になります。本体施工前または終了時に、下記手順に従い、風量設定を行ってください。

1. 安全のため、電源をOFFにします。
2. ⊕ドライバーで本体前面の2本のビスを回し、フェースカバーを外します。
3. 基板にあるディップスイッチを指定(設定シート)に合わせONとOFFを切替えます。
4. フェースカバーを元に戻し、本体前面の2本のビスを止めます。
5. 再度電源をONにすると変更が完了します。



18 試運転

- 各工事が終了しましたら、本体電源スイッチを入れ、切替スイッチの風量調節つまみが目盛りどおり正常に動作するか確認してください。
- 各部屋の換気量がバランスよく換気されているか確認してください。風量測定器を使用すると、より正確に確認できます。風量が足りない場合、ダクトの外れ、200V電源を確認してください。



お願い

- 通常は設計した切替スイッチ位置に合わせてください。
- 試運転を行い、異常がないことを確認後、取扱説明書に従って、お客様に使用方法・お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は取扱説明書と共に、お施主様で保管して頂くようにお渡しください。